

会長の時間（第1回）

平成26年7月3日

ロータリー年度はなぜ7月から始まるのか？

新年度のスタートする日ですので、本日はロータリーの新年度はなぜ7月1日から始まるのか、についてお話ししたいと思います。通常、個人の事業主も会社も事業年度があり、会社では事業年度の終了後には総会を開催しなければなりません。個人の場合は1月から12月までと決められていますが、会社の場合は事業年度を会社の都合で自由に決めることができます。

ロータリーが創始された当時のアメリカでは7月1日が新年度だった、と言う方もおられるようですが、そんなことはありません。

1905年にシカゴ・ロータリー・クラブが誕生し、アメリカ各地でロータリー・クラブが設立されるようになりました。そうなりますと、いろいろなクラブが顔を合わせるコンベンション（Convention）を開こうということになりました。今はコンベンションを国際大会と訳しています。世界大会という人もいます。ですが、コンベンションには、国際とか世界という意味はありません。日本にもコンベンション・センターといわれる建物があり、大規模な会合が開かれています。

当時はアメリカだけにロータリー・クラブがありましたのでコンベンションは、単に大会という意味でした。ロータリー・クラブがカナダに広がってコンベンションは、International Convention となり、現在に至っています。

1910年8月18日に最初の大会が開かれ、ポール・ハリスがロータリー・クラブ全米連合会の会長に選ばれました。ロータリーの大会といっても、登録者は60人、ささやかなスタートでした。ロータリーについて連合体 Association という概念は現在も生き続けています。つまり、ロータリーにおいては、各ロータリー・クラブが主体性を持っているということです。

ロータリーの最初の会計年度は、第1回大会が終了した翌日、1910年8月18日に始まりました。翌年度の1911年8月21日にロータリー全米連合会はロータリー国際連合体になり、再度ポール・ハリスが会長に選ばれ、会計年度もこの日程に合わせ8月21日の開始になっています。

さらに、翌年1912年8月、理事会が当時の国際ロータリークラブ連合会の会計監査を会計士に依頼した際、クラブ幹事と会計が十分な時間をもって大会に向けた財務報告を準備し、クラブ代議員の数を決定できるよう、会計年度の最終日は6月30日にするのが良いとの提案を会計士から受けたそうです。執行委員会は同意し、1913年4月の理事会で6月30日を会計年度の最終日と決めました。

ロータリーはその後1917年まで7月または8月に年次大会を開催していましたが、1916年米国シンシナシティでの年次大会において夏場の暑さを考慮して、大会を6月に開催する決議案を採択しました。これにより次の大会となるアトランタから6月に開催されるようになりました。

100年近くも前から「ロータリー年度」は、6月30日に年度が終わり、7月1日から開始になっています。このことは国際ロータリー定款にも明記されています。

以上、事業年度が7月から6月の1年間になった経緯です。